

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 611 号	氏名	Lam Quoc Bao
学位審査委員	主 査	松山 俊文	
	副 査	金子 修	
	副 査	濱野 真二郎	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>サハラ以南での乳幼児の死亡原因の第一位にあげられているマラリア感染において、繰り返し感染を経験した成人では乳幼児に比べて脳マラリアの重症化の頻度が急激に低下することが知られている。そこから繰り返しの感染で惹起された不完全な免疫が脳マラリア発症には有効に働いていると考えられる。本研究ではマウスマラリアの繰り返し感染治療モデルを用い、脳マラリア発症に対する影響を免疫学的な側面から明らかにしようとしたものであり、研究目的は妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>本研究では確立されたマウスマラリアの繰り返し感染治療モデルに脳マラリア発症モデルを組み合わせて用いられた。脳マラリア発症については中枢神経症状の観察とともに組織病理学的な解析を行った。免疫学的な解析として血中のサイトカインの測定、分画したリンパ球の細胞質内サイトカインの解析、繰り返し治療マウスからのB細胞分画の養子移入実験が行われた。これらの研究手法は妥当なものである。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>三回の繰り返し感染治療によりマウスが脳マラリア発症に抵抗性を獲得することが示された。脳マラリアの発症抑制に IL-10 を産生する CD19 陽性 B 細胞分画が関わっていることを証明した。</p> <p>本研究は脳マラリア発症の機序とその予防法を免疫学的に証明したものであり高く評価できる。審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			